

# 2015年3月期第1四半期 決算説明会



**Money Partners Group**

株式会社 マネーパートナーズグループ



本資料は、株式会社マネーパートナーズグループの事業及び業界動向についての株式会社マネーパートナーズグループによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確実性がつきまっています。

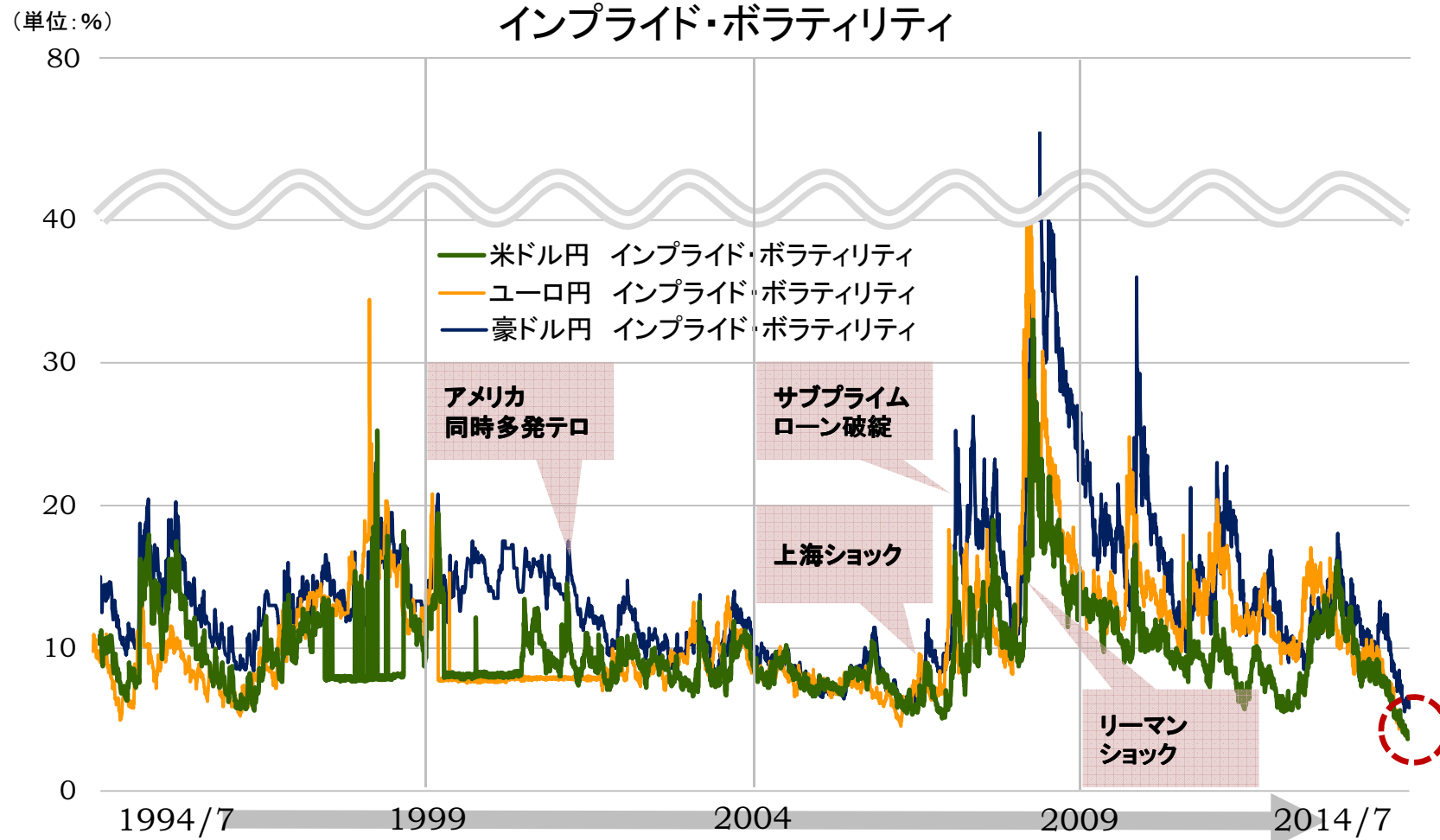
既に知られたもしくははいまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。

株式会社マネーパートナーズグループは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2014年8月4日現在において利用可能な情報に基づいて、株式会社マネーパートナーズグループにより2014年8月4日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。



# 外国為替主要3通貨20年の推移:ボラティリティ(変動率)



**現在のボラティリティ(変動率)は過去20年を見ても最も低い水準に。  
極めて厳しい環境であるものの、利益構造改善の効果もあり黒字を維持。**



## 「外貨引受けサービス」を開始！

# 外貨紙幣の取扱いを 始めてみませんか？



2020年の東京オリンピック開催に向けて、今後、外国人観光客のさらなる増加が見込まれています。

外貨紙幣での支払いを受け入れることで、「国際観光都市浅草」をアピールし、外国人観光客が親近感、安心感を持って立ち寄れる雰囲気を作ることができます！

メディアへの露出！6月9日テレビ東京「ワールドビジネスサテライト」にて放映。  
浅草商店連合会と提携し、小売業やサービス業等のリアル店舗への支援活動を推進。  
新たなブランディングチャネルを開拓。

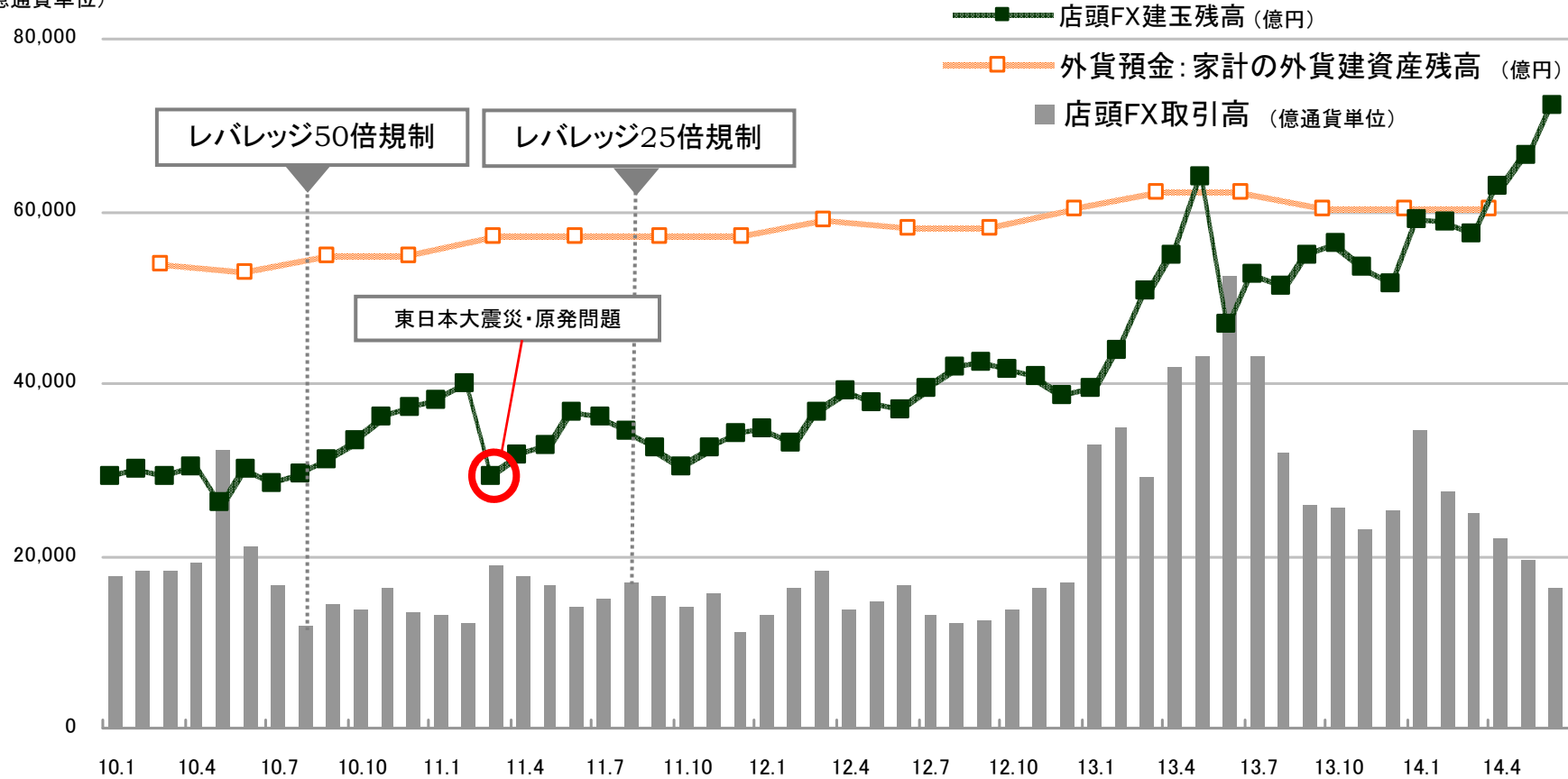


# FX市場について

Money Partners Group

## ■ 店頭FX建玉残高(※)及び店頭FX取引高の推移 ※買建玉と売建玉の合計(投資残高に相当)

(億円/億通貨単位)



※日本銀行統計時系列統計データ及び金先協会統計資料より当社作成

相場要因により取引高(フロー)は減少しているものの、建玉残高(ストック)は増加。

I .2015年3月期第1四半期の決算及び事業の概況

II .2015年3月期第1四半期の重点施策の進捗状況

III .今後の目指すべき方向性

IV .当社の経営目標及び株主還元について

# I .2015年3月期第1四半期の決算及び事業の概況



## 2015年3月期第1四半期 連結決算の総括とポイント

- ① 口座数は相場低迷の影響を受けたが、当社の独自サービスが各種メディアに取り上げられたこと等により24万口座と順調に拡大。預り証拠金も口座数の拡大に伴い前四半期比0.5%増の44,561百万円に。

総口座数	240,435口座	2014/3期4Q末比	2.0%増
預り証拠金	44,561百万円	2014/3期4Q末比	0.5%増

- ② 第1四半期(2014/4-6)の外国為替取引高は、歴史的とも言える低い水準の変動率の影響を強く受け、前四半期比44.1%減と大幅に減少。

4-6月取引高	2,001億通貨単位	2014/1-3月比	44.1%減
---------	------------	------------	--------

※取引高には2011年8月より開始したCFDに関する数値を含めております。

- ③ 営業収益は、カバー取引手法の最適化等により収益性が向上したものの、外国為替取引高減少の影響を受け969百万円(前四半期比29.0%減)、経常利益は41百万円(前四半期比87.4%減)となった。

- ④ 四半期純利益は前四半期比89.1%減の21百万円となった。





# 2015年3月期第1四半期 決算概況と影響ファクター

	2014/3期 4Q 【2014/1 ~ 2014/3】	2015/3期 1Q 【2014/4 ~ 2014/6】	前四半期 対比増減
外国為替取引高	3,583億通貨単位	2,001億通貨単位	△44.1%
営業収益	1,365百万円	969百万円	△29.0%
経常利益	328百万円	41百万円	△87.4%

## 【第1四半期の損益影響ファクター】

### 前四半期比

取引高



収益性



販管費



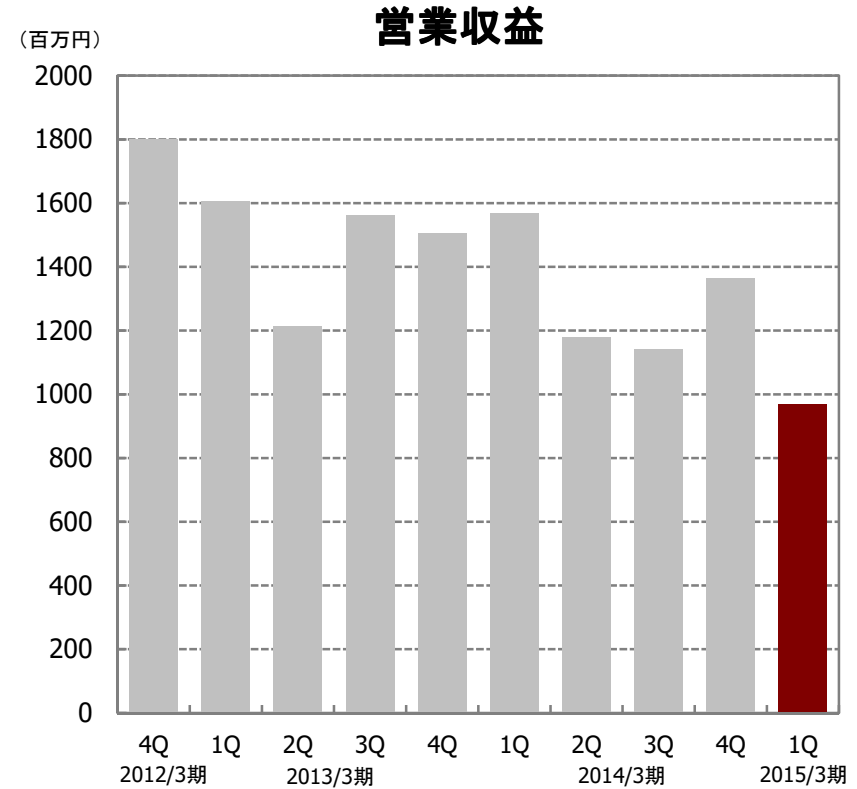
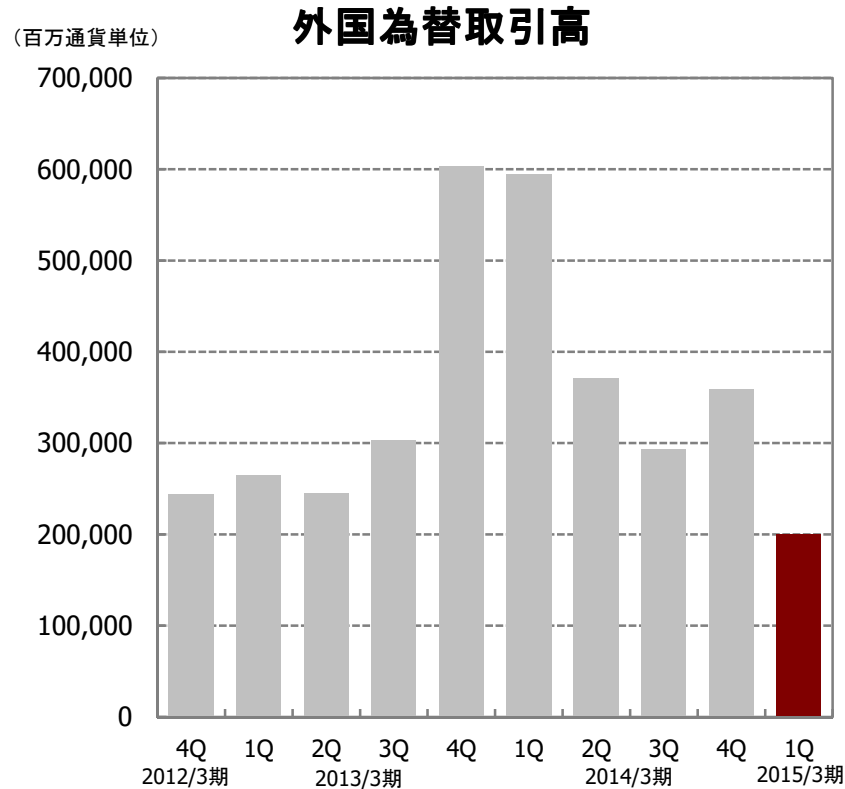
- ・ 取引高は、歴史的とも言える変動率低下の影響を強く受け、大きく減少
- ・ 取引高当たり収益性は、2014年3月期平均と比べ1.5倍程度上昇  
相対的に収益性の低い米ドル／円の割合低下の他、個々の通貨ペア毎の収益性改善も寄与
- ・ 取引高減少に伴い変動費を中心に減少  
前四半期比12.3%減少したものの営業収益の減少をカバーできずに減益に



# 事業数値の動向

Money Partners Group

## ■ 外国為替取引高及び営業収益の推移



(単位＝外国為替取引高:百万通貨単位、営業収益:百万円)

	12/3期 4Q	13/3期 1Q	13/3期 2Q	13/3期 3Q	13/3期 4Q	14/3期 1Q	14/3期 2Q	14/3期 3Q	14/3期 4Q	15/3期 1Q
外国為替取引高	244,236	264,466	245,265	302,966	602,634	594,850	370,796	292,823	358,329	200,156
営業収益	1,799	1,604	1,213	1,563	1,504	1,569	1,179	1,142	1,365	969

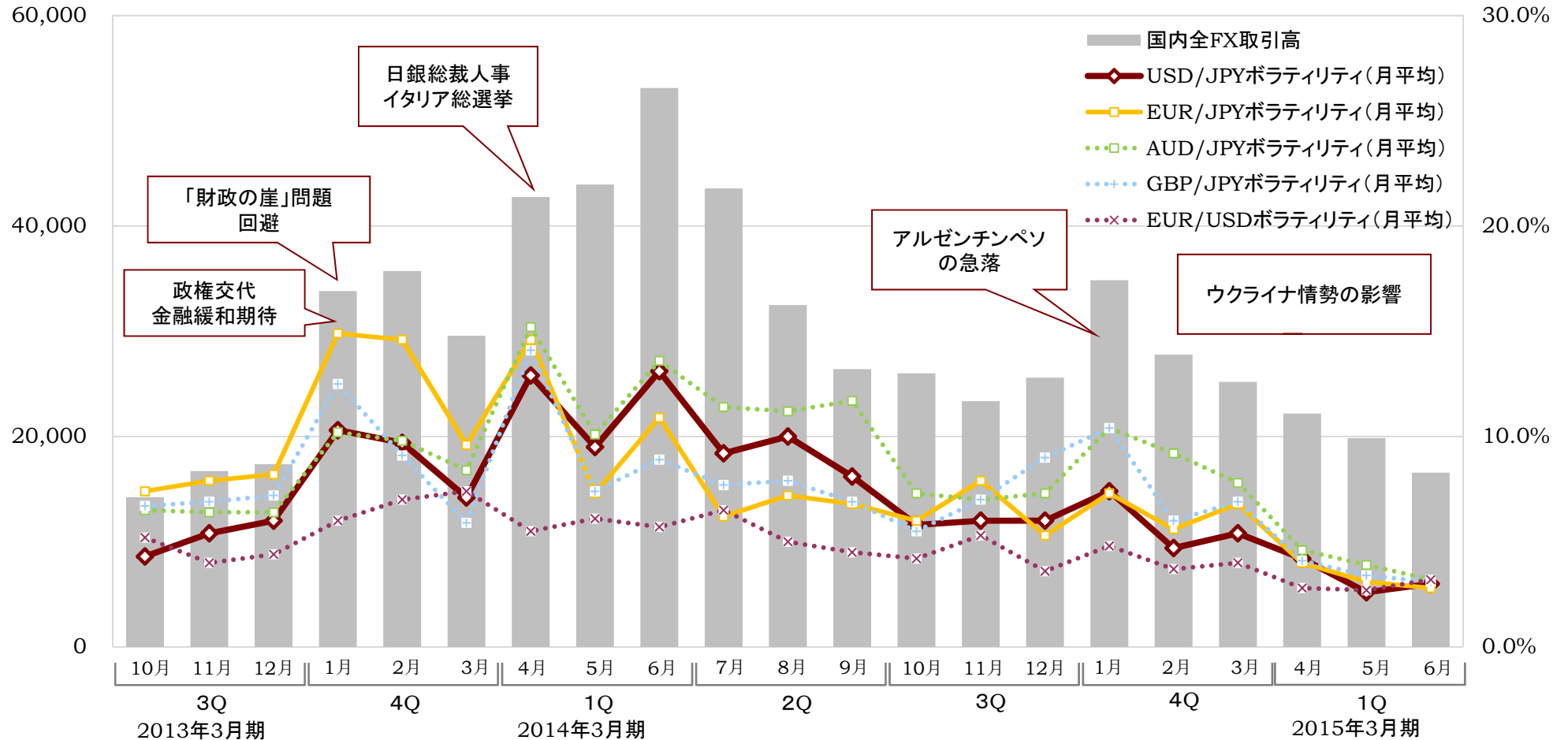
※ 外国為替取引高には2011年8月より開始したCFDに関する数値を含めております。



# FX市場の動向

Money Partners Group

## ■ 取引高・主要通貨ペア日次平均ボラティリティの推移

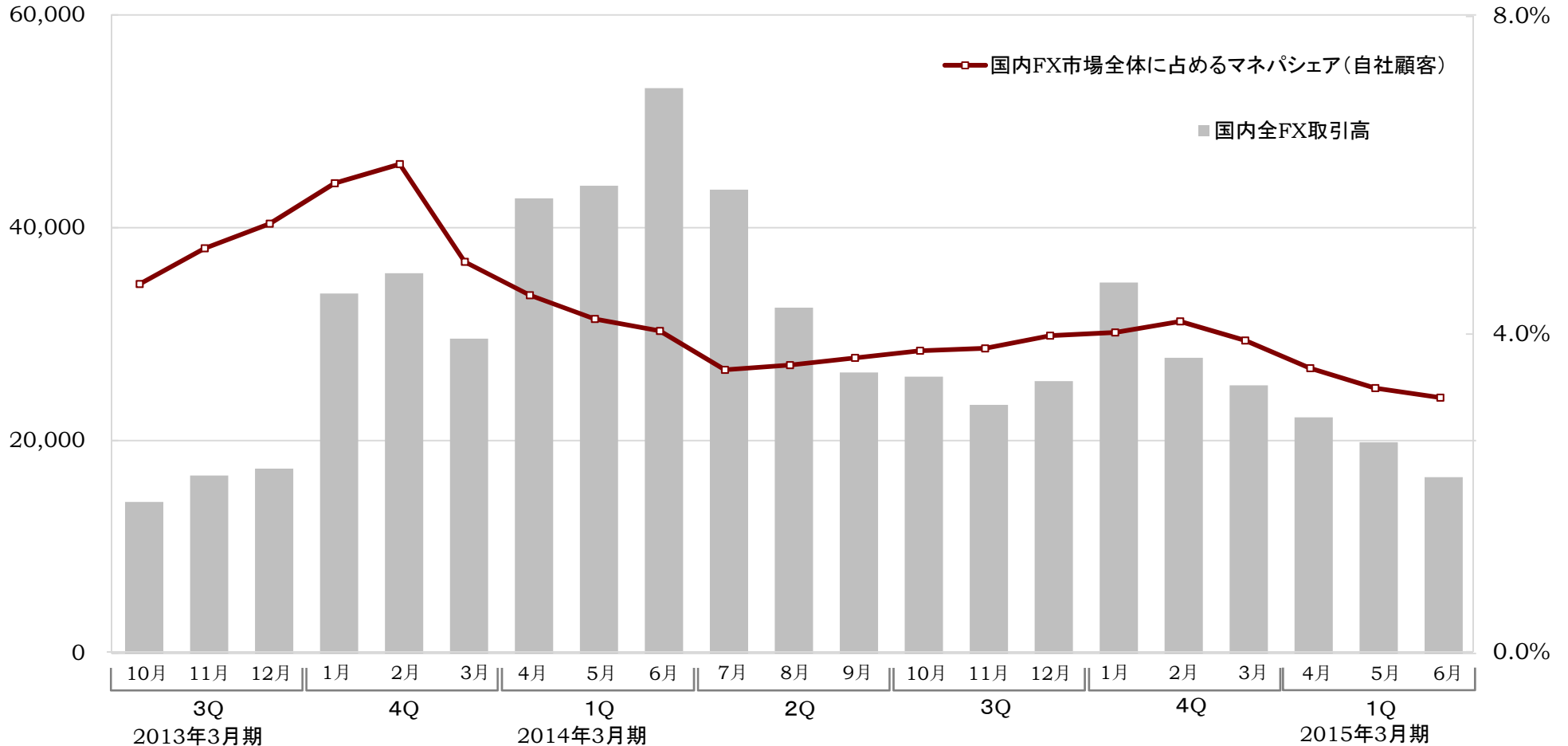


主要取引通貨ペアである米ドル／円の1Qの変動率は極めて低い水準となり、4月中旬以降の値動きは102円を挟んで上下1円にとどまる。他の主要通貨ペアの変動率も同様の状況となり、全体としての変動率は歴史的とも言える低い水準が継続。



# FX取引高及び当社シェアの推移

## 国内全FX取引高と当社シェアの推移



超短期取引の割合を低下させてきた結果、変動率の低下の影響を同業他社より強く受けシェアが低下したものと推測。この間、ストック面での顧客基盤拡大に注力し、小口の取引が増加。

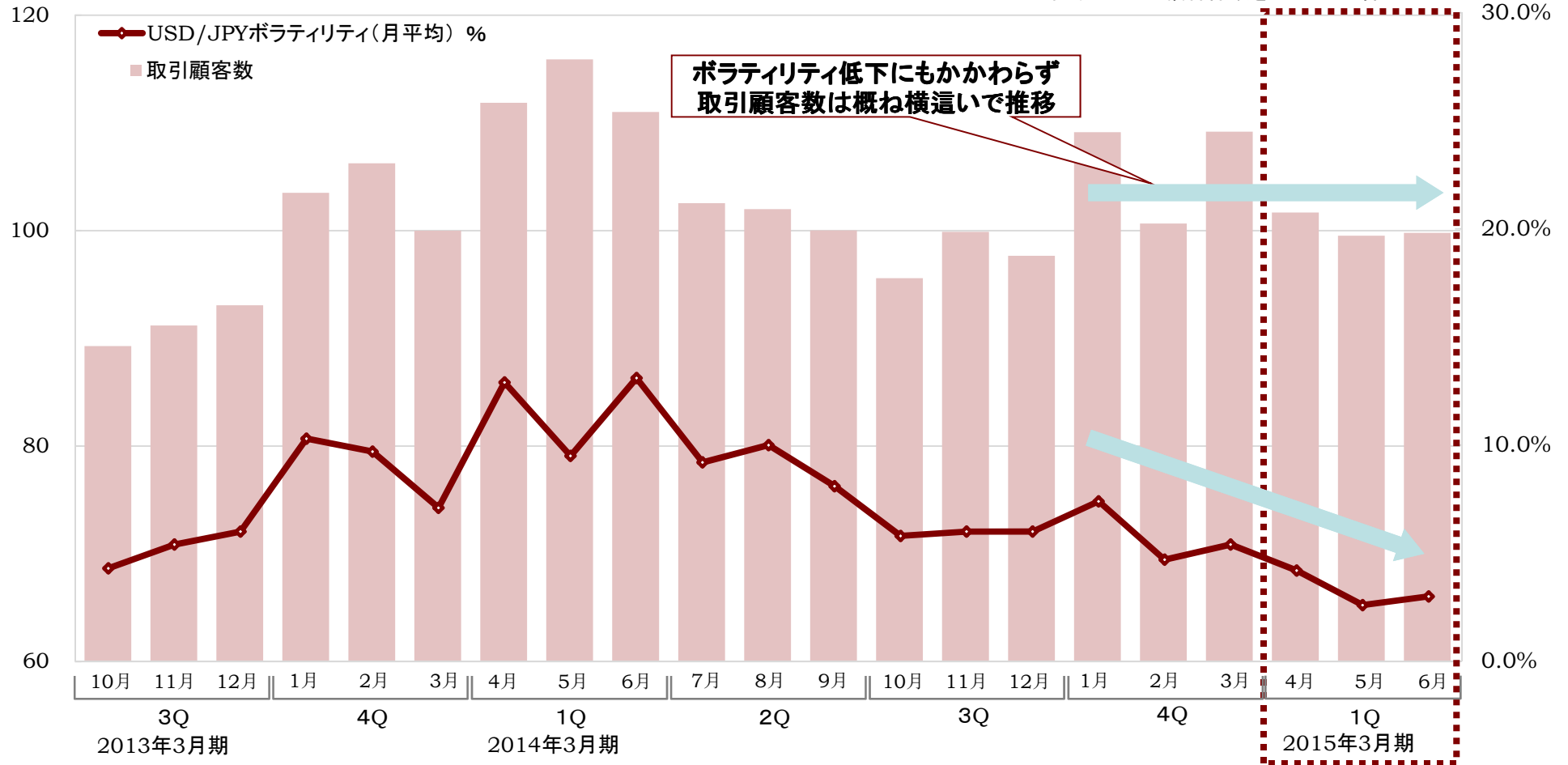


# 取引顧客数の推移

Money Partners Group

## ■ 取引顧客数及び米ドル／円ボラティリティの推移

※2013年3月の取引顧客件数を100として算出



取引顧客数はドル円のボラティリティ(変動率)と一定の相関関係をもって推移してきたが、顧客基盤拡充の取組み等の成果もあり双方のトレンドに乖離が生じつつある。



# 四半期業績推移

## ■ 四半期毎のP/L主要数値推移

単位:百万円

	2013/3期			2014/3期				2015/3期	前四半期 対比増減
	2Q (7月~9月)	3Q (10月~12月)	4Q (1月~3月)	1Q (4月~6月)	2Q (7月~9月)	3Q (10月~12月)	4Q (1月~3月)	1Q (4月~6月)	
営業収益	1,213	1,563	1,504	1,569	1,179	1,142	1,365	<b>969</b>	<b>△29.0%</b>
受入手数料	1	6	17	3	2	2	2	<b>2</b>	<b>△15.2%</b>
トレーディング損益	1,202	1,548	1,473	1,563	1,171	1,136	1,359	<b>963</b>	<b>△29.1%</b>
金融収益	4	4	3	2	3	3	3	<b>2</b>	<b>△5.8%</b>
その他の売上高	4	4	9	0	2	0	0	<b>0</b>	<b>0.0%</b>
金融費用	22	22	21	16	16	16	17	<b>18</b>	<b>5.3%</b>
売上原価	2	2	5	0	0	0	0	<b>0</b>	<b>0.0%</b>
純営業収益	1,188	1,538	1,476	1,552	1,163	1,125	1,347	<b>950</b>	<b>△29.5%</b>
販売費・一般管理費	1,332	1,338	1,260	1,112	973	964	1,039	<b>912</b>	<b>△12.3%</b>
営業利益	△143	199	216	440	189	161	307	<b>38</b>	<b>△87.5%</b>
経常利益	△142	200	224	427	197	162	328	<b>41</b>	<b>△87.4%</b>
税金等調整前四半期純利益	△239	198	202	412	194	157	327	<b>41</b>	<b>△87.3%</b>
四半期純利益	△167	122	124	247	119	96	200	<b>21</b>	<b>△89.1%</b>
営業収益経常利益率	△11.8%	12.8%	14.9%	27.2%	16.7%	14.3%	24.1%	<b>4.3%</b>	

営業収益は、外国為替取引高の大幅な減少の影響を受け前四半期比29.0%減少。販売費・一般管理費は前四半期比12.3%減少し、経常利益は前四半期比87.4%減と大幅に減少ながら黒字を維持。



# 四半期販管費推移

## ■ 販管費内訳及び主要費目の推移

単位:百万円

	2013/3期			2014/3期			2015/3期	前四半期 対比増減	
	2Q (7月~9月)	3Q (10月~12月)	4Q (1月~3月)	1Q (4月~6月)	2Q (7月~9月)	3Q (10月~12月)	4Q (1月~3月)		1Q (4月~6月)
取引関係費	481	439	400	259	224	240	293	<b>214</b>	<b>△26.8%</b>
人件費	242	235	244	257	234	231	242	<b>225</b>	<b>△7.1%</b>
不動産関係費	216	218	216	154	153	146	154	<b>154</b>	<b>0.3%</b>
事務費	221	280	233	283	226	224	226	<b>189</b>	<b>△16.2%</b>
減価償却費	144	141	143	122	111	99	98	<b>94</b>	<b>△4.3%</b>
租税公課	13	10	12	15	13	13	15	<b>15</b>	<b>3.7%</b>
貸倒引当金繰入れ	—	—	—	—	—	—	0	—	—
その他	11	12	9	19	10	8	8	<b>17</b>	<b>94.4%</b>
販売費・一般管理費合計	1,332	1,338	1,260	1,112	973	964	1,039	<b>912</b>	<b>△12.3%</b>

(主要な費目)

広告宣伝費(※1)	130	58	72	79	83	112	158	<b>91</b>	<b>△42.2%</b>
システム関連費用(※2)	357	408	362	349	285	268	290	<b>247</b>	<b>△14.9%</b>

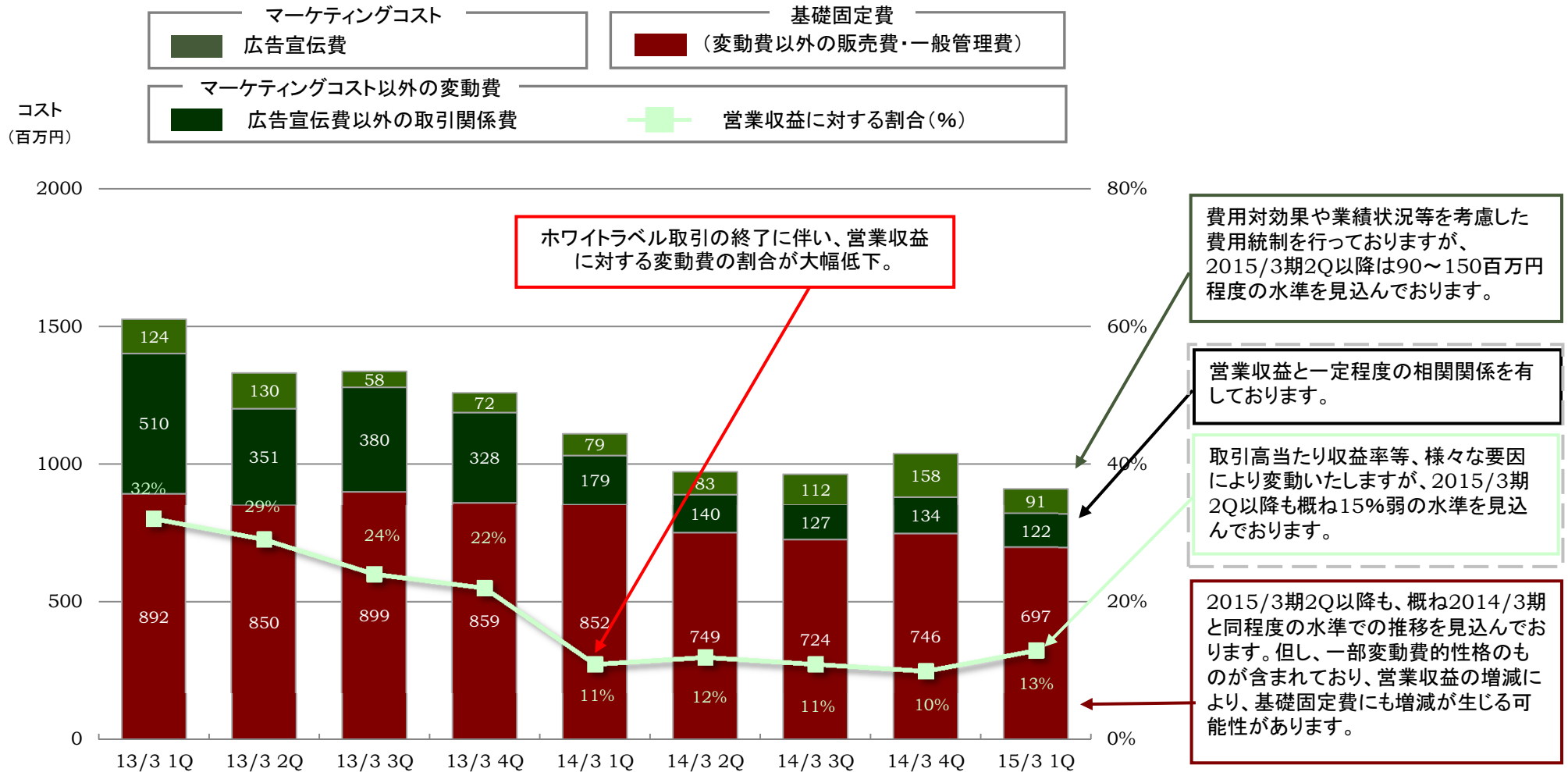
※1 取引関係費の一部となります。 ※2 取引関係費、不動産関係費、事務費の一部となります。

外国為替取引高の減少に伴い、取引関係費の主要な費目である支払手数料が減少。また、広告宣伝費はメリハリを利かせ総額は抑制。この結果、取引関係費トータルでは前四半期比78百万円減の214百万円に。その他の費用増加は、株主総会費用等の季節的要因によるもの。



# 四半期固定費・変動費推移と今後の動向

## ■ 主要な固定費・変動費の推移



外国為替相場低迷の影響を受け、変動費を中心に費用総額は減少。  
 コスト構造自体には大きな変化は生じておらず、2014年9月より提供開始の新サービスの影響も限定的である見込み。



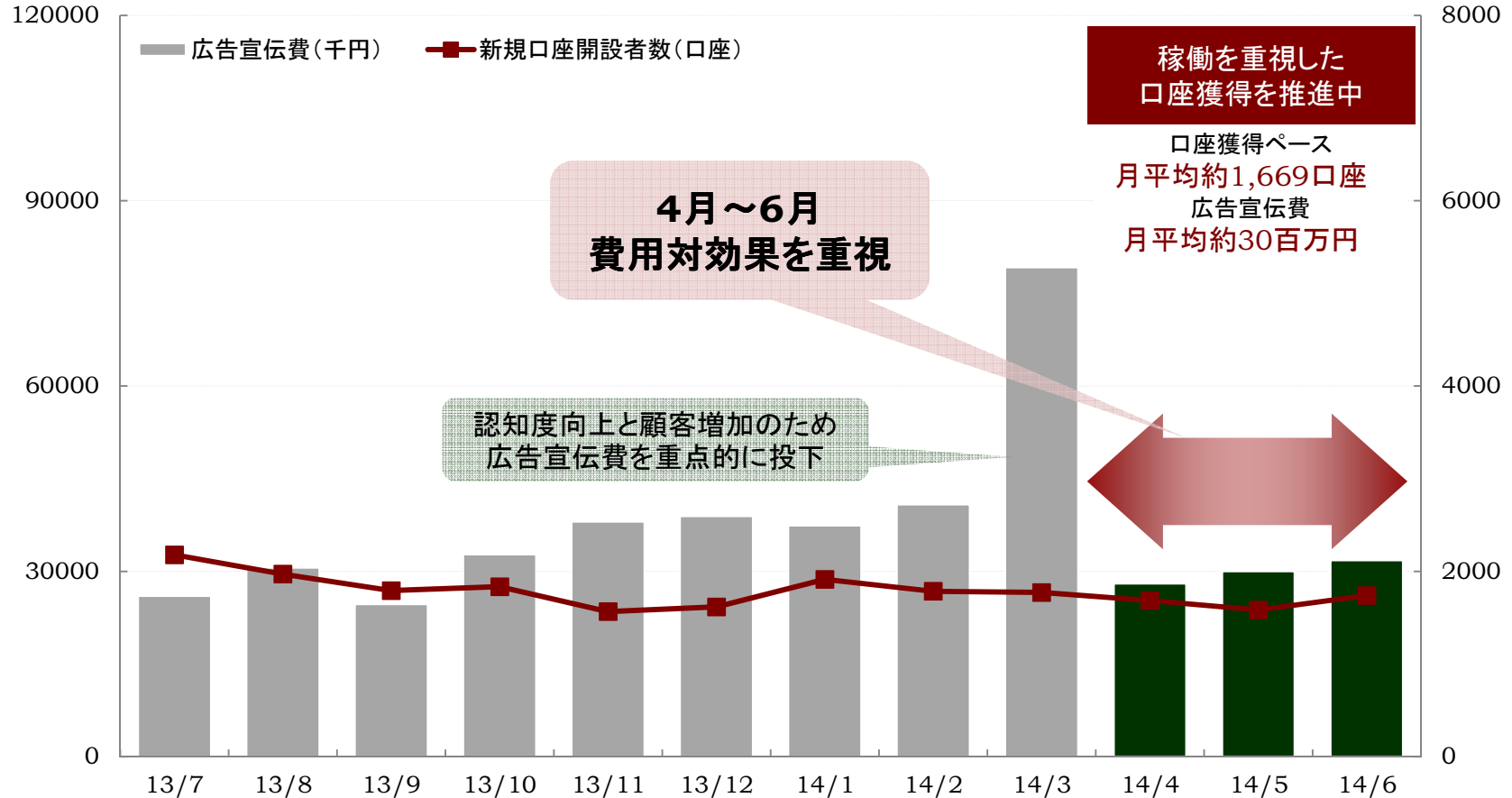


# 月次広告宣伝費の推移

## ■ 広告宣伝費及び新規口座開設者数の推移

(千円)

(口座)



4月～6月  
費用対効果を重視

認知度向上と顧客増加のため  
広告宣伝費を重点的に投下

稼働を重視した  
口座獲得を推進中

口座獲得ペース  
月平均約1,669口座  
広告宣伝費  
月平均約30百万円



テレビ取材等による露出が増え、より一層費用対効果の高いブランディングを行ったことがコストの削減につながった



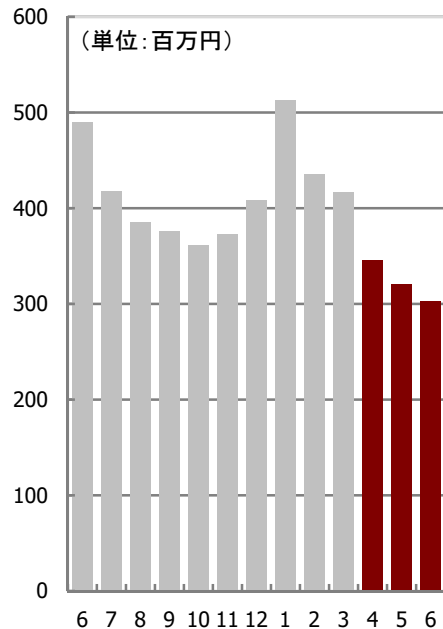
# 月次業績指標推移

## ■ 月次営業収益、外国為替取引高、顧客口座数、顧客預り証拠金の推移

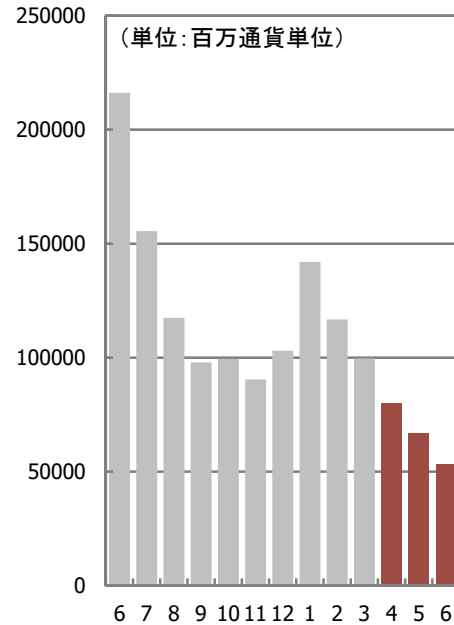
	2013年							2014年					
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
営業収益(百万円)	490	417	385	376	361	372	408	513	435	416	345	320	303
外国為替取引高 (百万通貨単位)	216,211	155,483	117,466	97,846	99,448	90,408	102,966	141,934	116,780	99,614	80,006	66,673	53,476
顧客口座数(口座)	220,361	222,432	224,281	225,986	227,731	229,204	230,717	232,518	234,192	235,807	237,340	238,815	240,435
顧客預り証拠金(百万円)	42,327	42,886	43,202	43,229	43,755	44,179	43,797	44,144	44,250	44,348	44,177	44,098	44,561

※営業収益、取引高は、ホワイトラベル提供及び大証FXマーケットメイク業務に伴い発生した収益・取引を含んでおります。顧客預り証拠金は、ホワイトラベル提供に伴う預り証拠金を含んでおります。それぞれの計数には2011年8月より開始したCFDに関する数値を含めております。

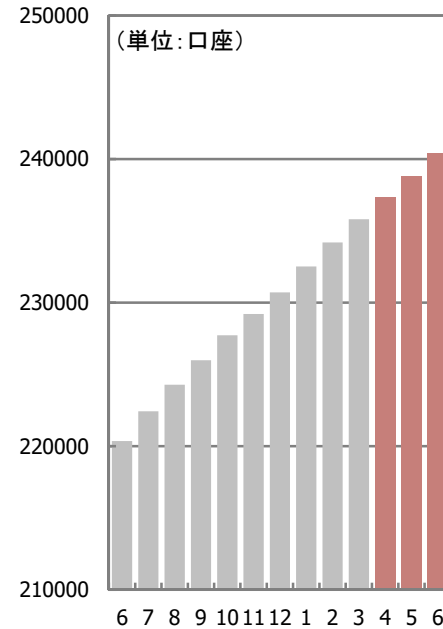
■ 営業収益



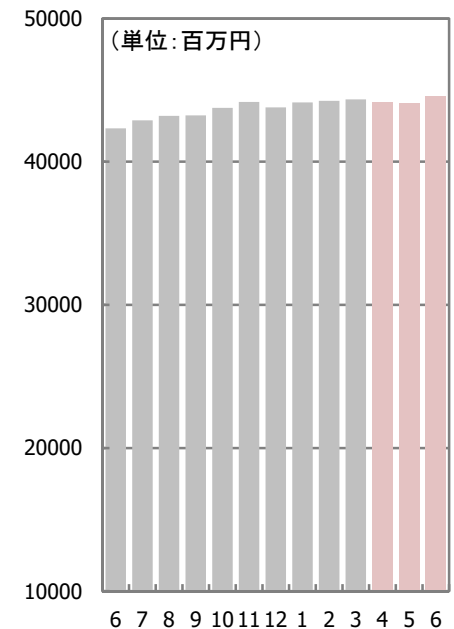
■ 外国為替取引高



■ 顧客口座数



■ 顧客預り証拠金



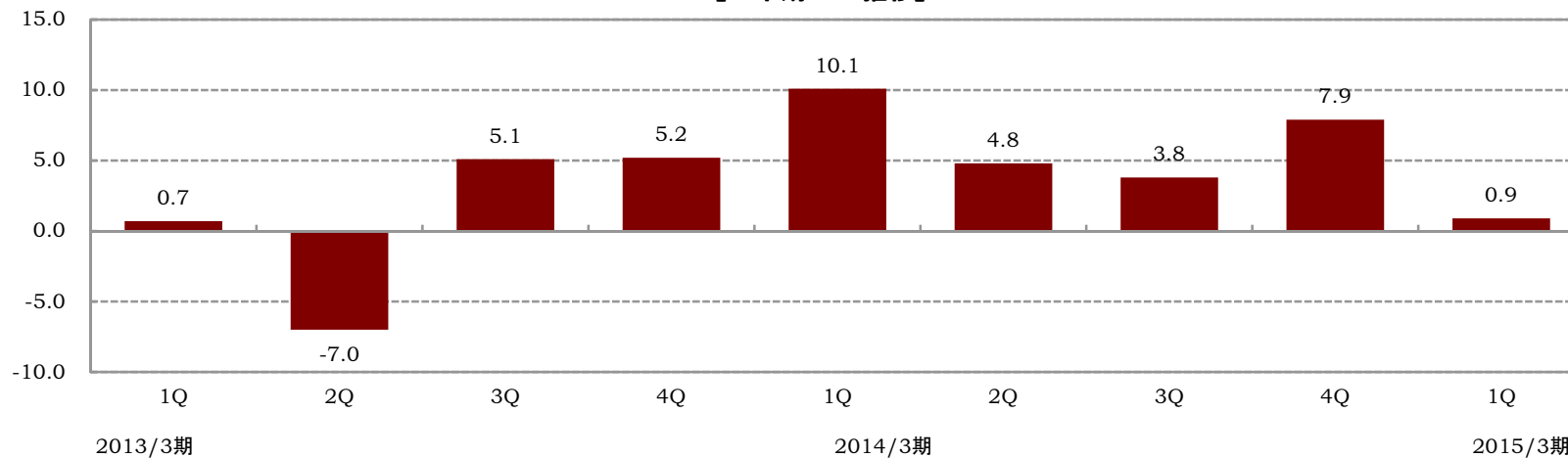


Money Partners Group

# 主要経営指標推移

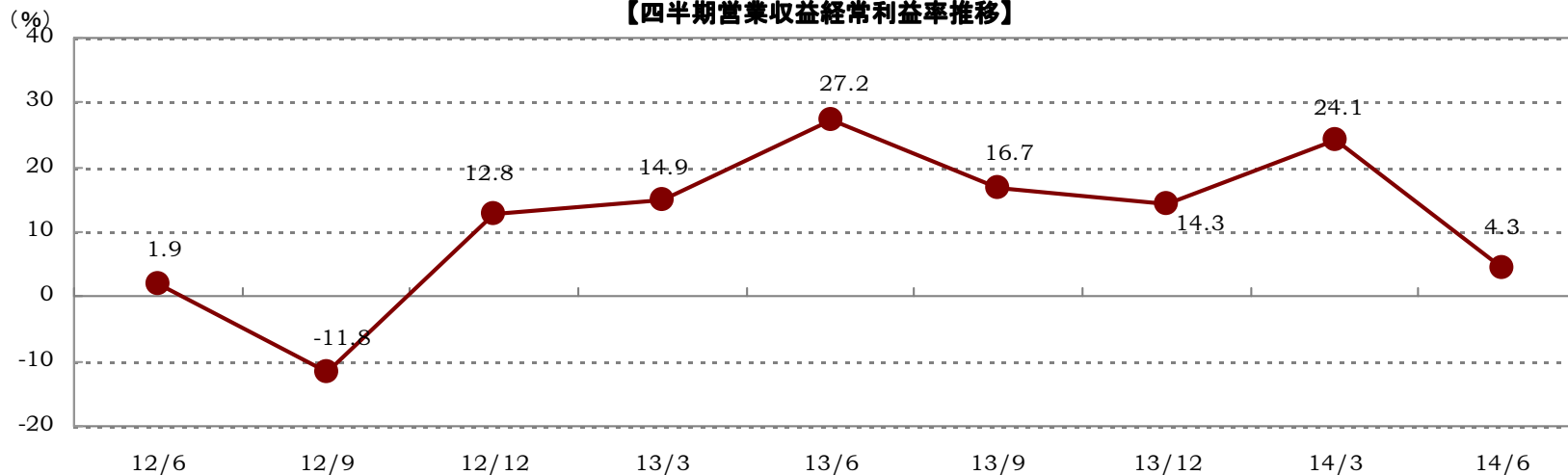
## ■ ROE及び営業収益経常利益率推移

【四半期ROE推移】



※: 四半期ROEにつきましては、下記計算式により年換算して算出しております。  
 $ROE(年換算) = (四半期純利益 \times 4) \div ((四半期期首自己資本 + 四半期期末自己資本) \div 2) \times 100$

【四半期営業収益経常利益率推移】



## Ⅱ.2015年3月期第1四半期の重点施策の進捗状況



## 重点課題

収益力強化

顧客基盤拡大  
取引機会創出

## 重点施策

- 実需層の取り込みによる顧客基盤の拡大と収益化
- 顧客基盤の多様化と収益率の更なる向上





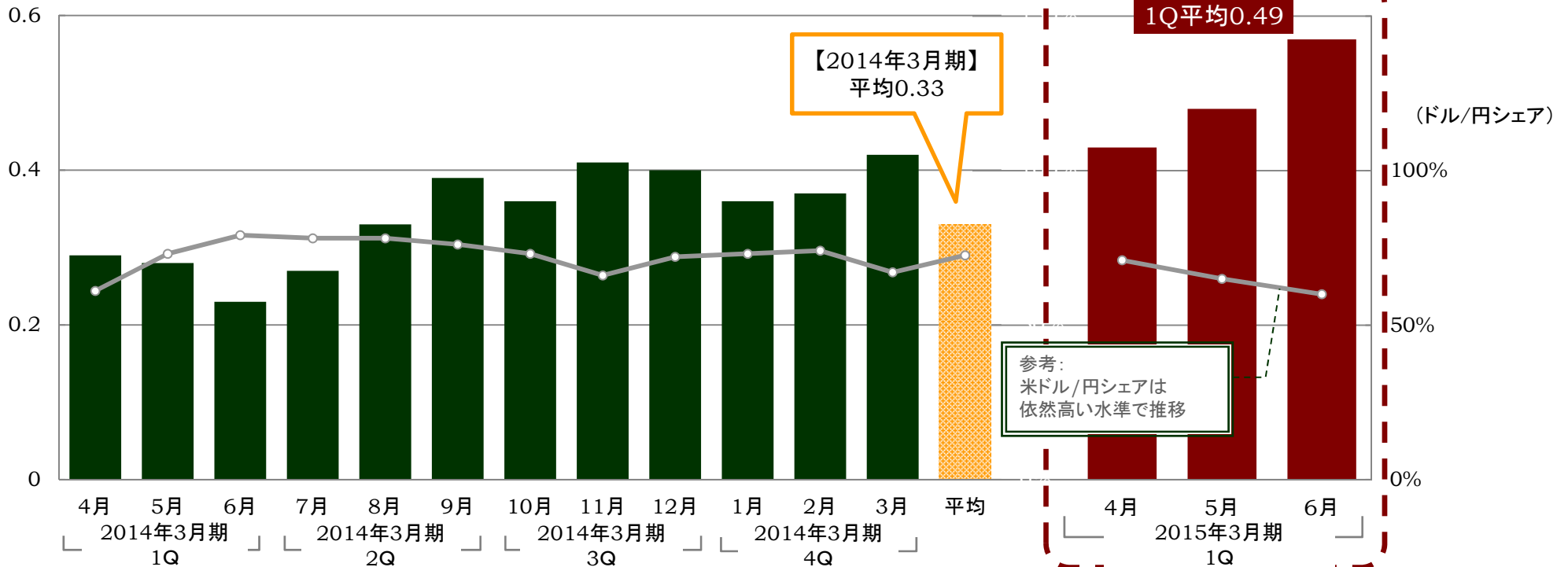
# 重点施策の進捗状況①

Money Partners Group

## 基幹システム刷新による収益性改善

### ◆ 約定系、顧客系システムの更なるチューニング及び カバー取引手法の改善等によって継続的な収益性<sup>(※)</sup>の向上を図る

(収益性) ※この表における収益性は下記計算式により算出しております。  
収益性 = 営業収益(円) ÷ 外国為替取引高(通貨) × 100



収益性の低い米ドル/円の取引高割合が減少しているだけでなく、個々の通貨ペア毎の収益性が高まったこと等により、1Qの収益性は2014年3月期の平均の収益性よりも増加。

## 前期平均対比で1.48倍に！



Money Partners Group

## 重点施策の進捗状況②

### ブランディング強化とマス戦略展開による顧客獲得

#### 外貨紙幣の取扱い

We accept  
**USD & EUR here!**  
 (bills only)

**外貨紙幣使えます!**

**マネーパートナーズ**

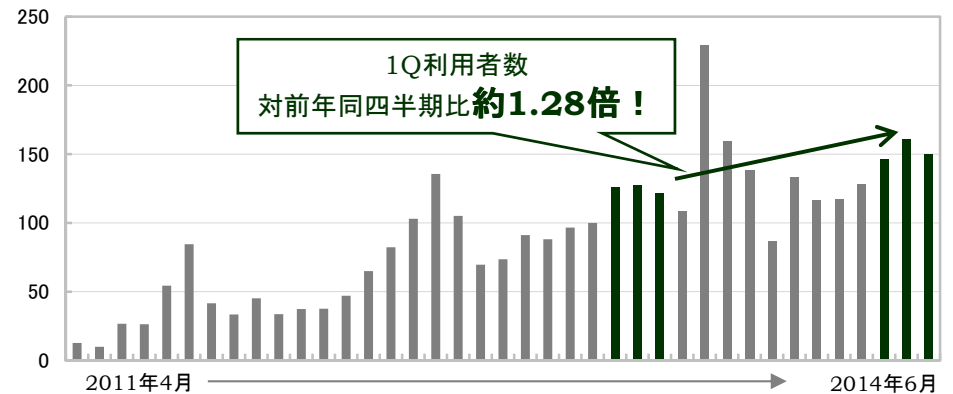
- ◆ 6/9テレビ東京「ワールドビジネスサテライト」にて放映
- ◆ 新たなブランディングチャネルを開拓
- ◆ 浅草商店連合会1,400店舗の導入をはじめ、新規提携先も模索中

#### 空港での顧客認知



#### 外貨両替利用者数推移

※2013年3月の外貨両替利用者数を100とし計算



- ◆ 裾野の広い外国為替取引初心者層・実需層からの顧客獲得導線を構築
- ◆ ドル、ユーロ、ポンド、スイスフランに加え6月23日より**韓国ウォンの取扱い開始!**



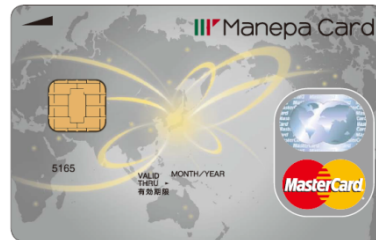
# 重点施策の進捗状況③

Money Partners Group

## ブランディング強化とマス戦略展開による顧客獲得

### カード

## Manepa Card



クレジットカードよりも手数料がお得！  
海外専用プリペイドカード  
プリペイドカードで初！ICチップ付きで不正利用防止

### マネバカードのカンタン便利な 2 ステップ



1 5つの通貨が1枚のカードで使える！  
為替レートを確認して、おトクに外貨をチャージ！

### 2 旅行先で現地の通貨を使う！

ATMで現地通貨を引き出したり、  
マスターカードのお店で使う！



Manepa Card

9月 商品説明会とカード申込み受付開始予定！

### ビギナー向け施策

米ドル / 円 **0.3** 銭

※例外あり

初心者にも最適の nano  
少額取引 & 業界最狭水準スプレッド

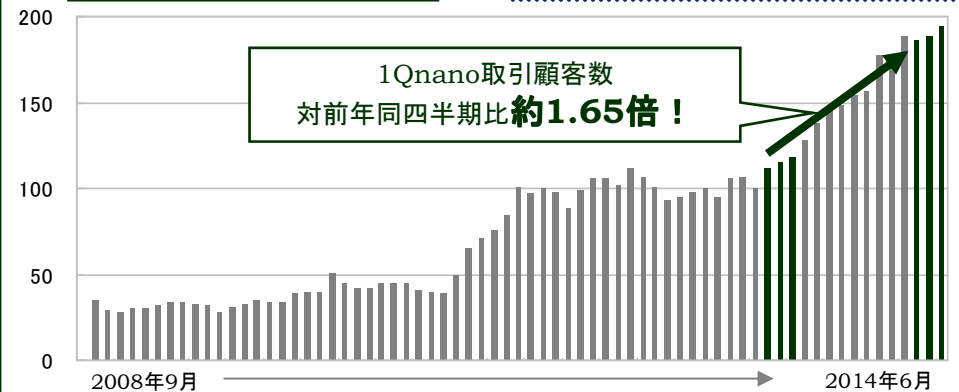
- ・スプレッドの更なるナロー化
- ・スワップ最高水準
- ・取引ツールとの連動

PartnersFX  
『クイック発注ボード』



HyperSpeedTouch  
『HyperSpeedTouch』

### nano取引顧客数推移



※2013年3月のnano取引顧客件数を100として算出

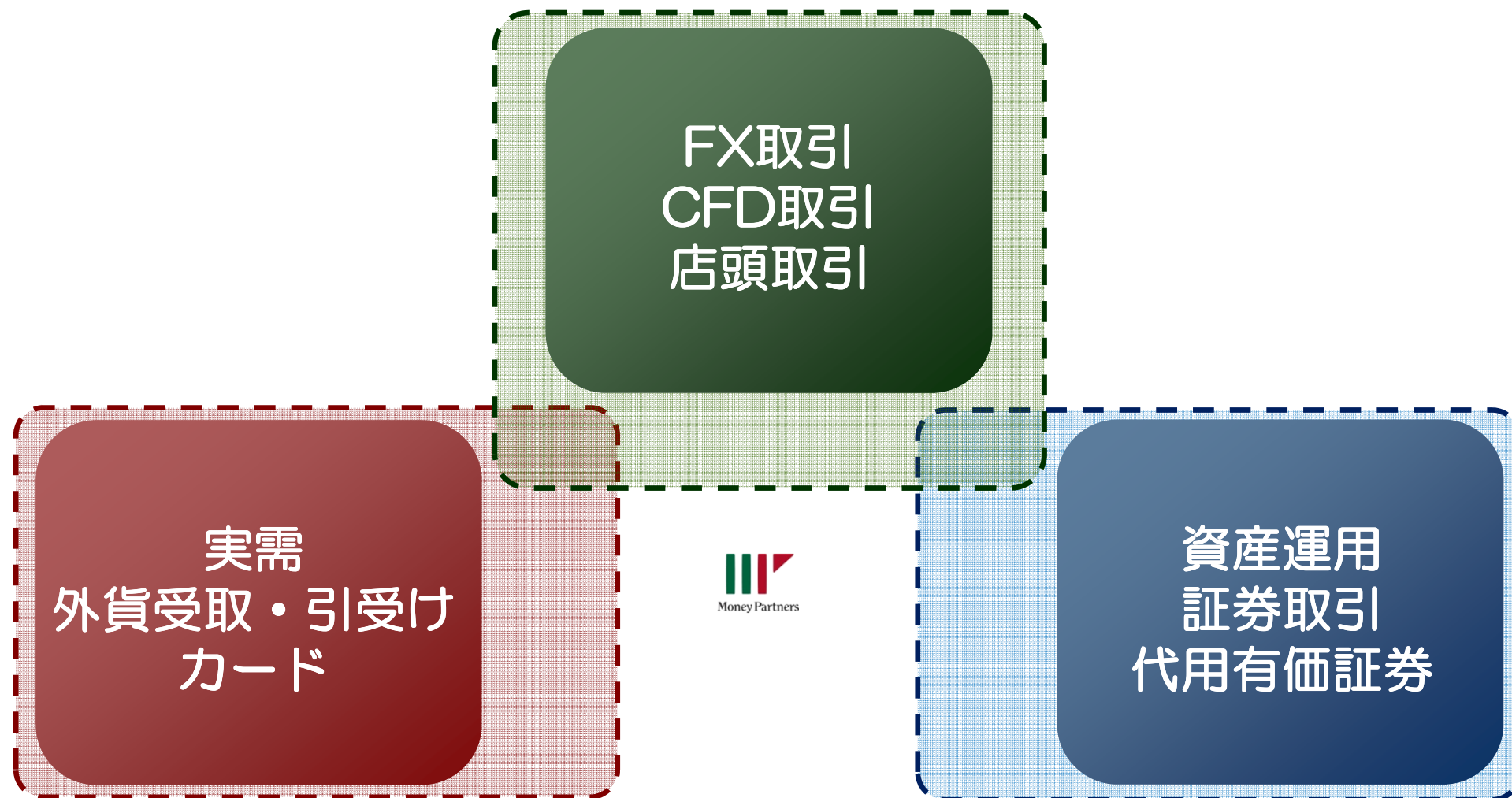
FX取引の増強策として一般化路線の定着を図るため、  
nanoの施策を展開



### Ⅲ. 今後の目指すべき方向性

---





FXを軸とした外国為替・資産運用の専門店を目指す！

## IV. 当社の経営目標及び株主還元について

---



## ROE及び営業収益経常利益率の向上

- 当社は、企業価値の最大化のため自己資本を効率的に活用することを重視しております。
- このために効率的な収益構造の実現を目指して参ります。
- 効率性を計る尺度として、自己資本利益率(ROE)及び営業収益経常利益率を重要な経営指標として位置づけております。

▶ **2015年3月期第1四半期(2014年4~6月)のROEは0.9%**

※: 四半期ROEにつきましては、下記計算式により年換算して算出しております。  
$$\text{ROE(年換算)} = (\text{四半期純利益} \times 4) \div ((\text{四半期期首自己資本} + \text{四半期期末自己資本}) \div 2) \times 100$$

▶ **2015年3月期第1四半期(2014年4~6月)の営業収益経常利益率は4.3%**



# 株主還元について

## 業績向上に取り組み、株主利益の向上に努める

### 配当方針

配当性向 … 連結当期純利益の30%を目処

配当機会 … 中間及び期末(年2回)

		2014年3月期				2015年3月期			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
当期純利益 累計期間(百万円)		247	366	463	663	21	-		
配当金の総額 (百万円)		90		120		-			
期末発行済 株式総数(株)		322,110 (内、自己株式20,023)		32,223,000 ※1、2 (内、自己株式2,002,300)		32,241,000 (内、自己株式 2,002,300)		-	
1株当たり 配当金	中間・期末	300円		4円		-			
	年間	7円 ※3				-			

※1 2013年10月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。

※2 2013年3月期末の発行済株式数であります。

※3 2013年3月期の期首に株式分割が行われたものと仮定して、1株当たりの配当金額を算出しております。



## 取扱い商品に係るリスク及び手数料等について

パートナーズFX、パートナーズFXnano及びCFD-Metalsは、取引時の価格又はスワップポイントの変動、及びスワップポイントは支払いとなる場合があることにより、売付時の清算金額が買付時の清算金額を下回る可能性があるため、損失が生じるおそれがあります。また、証拠金の額以上の投資が可能のため、その損失の額が証拠金の額を上回るおそれがあります。売付価格と買付価格とには差額(スプレッド)があります。

取引手数料は無料です。ただしパートナーズFXについては、受渡取引に限り、1通貨単位当たり最大0.40円の手数をいただきます。

パートナーズFX及びパートナーズFXnanoの取引に必要な証拠金は、取引の額の4%以上の額で、証拠金の約25倍までの取引が可能です。法人コース(パートナーズFXのみ)の場合は、取引の額の0.5%以上の額で、証拠金の約200倍までの取引が可能です。

CFD-Metalsの取引に必要な証拠金は、取引の額の5%以上の額で、証拠金の約20倍までの取引が可能です。国内上場有価証券の売買等に当たっては、最大で約定代金の2.7%の手数料(消費税込み)、最低手数料は取引形態等により異なり最大で2,700円(消費税込み)をいただきます。国内上場有価証券等は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の価格の変動等及び有価証券の発行者等の信用状況(財務・経営状況を含む)の悪化等それらに関する外部評価の変化等を直接の原因として損失が生ずるおそれ(元本欠損リスク)があります。

取引開始にあたっては契約締結前書面を熟読、ご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願い致します。

〈商号〉株式会社マネーパートナーズ(金融商品取引業者・商品先物取引業者)

〈金融商品取引業の登録番号〉関東財務局長(金商)第2028号

〈加入協会〉日本証券業協会 一般社団法人金融先物取引業協会 日本商品先物取引協会

# 2015年3月期第1四半期 決算説明会



**Money Partners Group**

株式会社 マネーパートナーズグループ